

近藤忠夫を偲ぶ
～ **TechnoAmenity** の追究者～



近藤忠夫

2020年4月7日 永眠（享年75歳）

ごあいさつ

本年4月に永眠いたしました弊社名誉顧問 近藤忠夫（元代表取締役社長）が生前に皆様から賜わりました数々のご厚情、ご高配に心から感謝を申し上げます。

故人は、1973年に日本触媒化学工業株式会社(現 株式会社日本触媒)に入社し、研究員また事業企画の推進者として多くの分野の研究開発に携わりました。2000年にグループ会社日宝化学株式会社代表取締役を委嘱され、事業拡大のため手腕を発揮した後、2005年に弊社社長に就任しました。

社長就任時点のわが国経済は回復期に有り、弊社業績も順調でありましたが、これに気を緩めることなく、基盤事業の足固めと併せ新規事業育成に努めました。コア事業であるアクリル酸（A A）および高吸水性樹脂（S A P）では更なる拡大のための施策を実施しました。姫路製造所に、生産性や品質を向上させ、かつ、投資コストも低減させたA AおよびS A Pの新プロセスを導入し、収益性の拡大と安定に注力しました。酸化エチレン（E O）事業においても、川崎製造所のE Oセンター化構想を推進しました。E Oおよび誘導品の生産能力の増強とともに、E O導管敷設による千鳥・浮島両工場の一体運営体制を整え、また、M& AによるE O誘導品を数多く手がける日本乳化剤株式会社の取得も実施しました。さらに電子情報材料において、主力製品へと成長する光学材料用アクリル樹脂の上市や液晶やプリント基板用レジスト樹脂等を拡販し、事業としての基盤を築き上げました。これらと同時に新規分野の開拓やC S R経営・ガバナンス強化にも果敢に取り組みました。

その後も相談役・名誉顧問として会社の行く末を見守りつつ、社外活動にも積極的に参画し、化学業界全体の発展にも尽力を続けました。

故人が残した経営基盤と価値観を受け継ぎ、挑戦を続け、更なる発展に向けて、役員・社員一同邁進していく所存でございます。

今後ともなお一層のご指導ご鞭撻を賜わりますよう、お願い申し上げます。

2020年12月

株式会社日本触媒
代表取締役社長 五嶋 祐治朗

夫 近藤忠夫を偲んで

本年4月7日に、夫 近藤忠夫が75歳で他界し、多方面の皆様方からお心のこもったご弔意を賜りましたことをこの場をお借りし、衷心よりお礼を申し上げます。生前の皆様のご厚情を、重ねて感謝申し上げます。

終息がみえないコロナ禍、葬儀を最小限にとどめ、直接皆様にお礼の言葉を述べることもできず、また、故人に対しても何もしてあげられなかった無力感が残ります。葬儀場に隣接する三井寺境内の満開の桜だけは、惜しみなく「お疲れ様」と言葉を注ぐように夫の末後を見送ってくれていたかのようでした。虚しさのなかにも、わずかに気持ちを和らげてくれた光景を思い出します。

昨年12月には旭日中綬章拝受のため、皇居に参内いたしました。「これは決して個人にではなく会社に与えられたものだ」と語っていたことが印象に残ります。そんな会社一筋であった夫が、亡くなるひと月ほど前に、家族一人一人に宛て、父親として夫として祖父として、メッセージを書いて残してくれました。今となっては、故人が心を込めてしたための最後の書簡となり、貴重な肉声が傍にあるような気がします。

どんなに忙しくても朝起きるとすぐに自分でお茶を入れて飲むことから夫の一日が始まりました。使っていた急須をふと見ると今もその動作が目には浮かび、いつものことをする人がもういないことを実感いたします。

「自分を生きよ」という夫の言葉を思い出して、これからの日々を丁寧に生きていこうと思います。

2020年12月

近藤 道子

独創的技術へのこだわりを糧に創造的な研究を展開

近藤忠夫は、1944年4月12日に、父綾男、母喜久子の長男として愛媛県新居浜市で生まれました。1973年3月に京都大学大学院博士課程（合成化学専攻）を修了し、「後追い研究をしない」をモットーとする熊田研で学んだ近藤は、自前の技術にこだわる当社（当時、日本触媒化学工業株式会社）の社風に共感し、4月に入社、研究開発に邁進しました。



奈良へ散策（熊田研の仲間たちと） 前列左から3番目が近藤 実験風景（京都大学時代）

当社で初めての博士課程卒だった近藤は、研究所第一研究室に配属され、アクリル酸エステル類の開発グループに所属しました。新入社員の近藤は、「文楽を観ること、酒を飲むこと、本を買うことの好きな、少し古びた涙もろい」人であると自己紹介で述べていました。



社内報 座談会より（1973年）

COLUMN

独身時代の近藤は、研究所員同士で野球をしたり、バーベキューに出かけて楽しんでいました。



第5研究室と隣の研究業務課の男性社員たちと六甲山でBBQ 前列でしゃがんでいるのが近藤（1975年）

COLUMN

忙しい時間を縫って、幼い子どもたちとの時間を大切に過ごしていました。



長年書齋に飾ってあった子どもたちとの写真（1989年）



博士論文



実験風景（入社当時）

筑波研究所長を経て日宝化学社長として経営者修行

1992年にR&D推進室長となった近藤は、1993年に筑波研究所長に抜擢されました。

近藤は、公私を峻別し現実主義・合理主義で業務に臨む一方、研究者としての探究心にも満ちていました。若い研究者たちにも失敗を恐れずチャレンジすることを勧め、包容力のある人柄は自由闊達な議論を推進しました。



米国から生分解性プラスチック視察団が筑波研究所を来所（1993年） 左から2番目が近藤

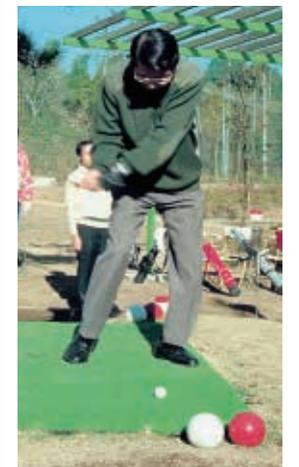
1997年、企画開発本部新規化学品開発部長に就き、精力的に活動し、その後、近藤は会社経営者としての経験を積むべく、2000年6月に日宝化学株式会社代表取締役社長を委嘱されました。事業拡大のためヨウ素・シアン系化合物に関連したファインケミカル事業開発に、経営者兼研究者の立場としてその手腕を発揮しました。



日宝化学株式会社 創立記念式典（2003年）

COLUMN

筑波寮には、自家製バンカー付きのゴルフゲージが設けられ、休日の早朝は、近藤の特訓場となり、爽やかな打球音で目を覚ます寮生も少なくなかったとか。



ミニゴルフ大会（1995年）



社内懇親旅行で訪れた犬吠埼にて（1996年） 前列左から5番目が近藤



米国出張時、エヌエイ・インダストリーズ社にて（1998年）

新規製品・事業を創出し、「テクノアメニティNV」を好業績で完遂

当社に復帰した近藤は、2003年に常務取締役、2004年に代表取締役副社長に就任しました。長期経営計画「テクノアメニティNV」の後半中期経営計画を柳田前社長の路線を踏襲して策定し、2005年4月に代表取締役社長に就任しました。

コア事業の一層の強化のために、AA・SAP事業のグローバル展開とコストダウンをさらに推し進め、電子情報材料、医薬等ファイン中間体、新エネルギー材料での新規製品開発に、より一層経営資源を集中させ、スピードアップを図りました。

近藤を先頭に全社が一丸となって取り組んだ結果、売上高、利益等の経営目標については、1年以上前倒して達成することができました。

AA：アクリル酸
SAP：高吸水性樹脂
EO：酸化エチレン



社長就任当時(2005年)

COLUMN

新社長の要請を受けた近藤は、「正直大変な日々が始まる」と感じた。覚悟を決めてやる」と当時の新聞のインタビューで語っている。趣味はゴルフ、読書、歌舞伎、文楽鑑賞。特に読書は、少年期より月に何冊も同時に読むほどの読書家であった。



シンガポール・アクリリック社AAプラント増強工事完工式(2005年)



ニッポンシヨクバイ・ヨーロッパ社SAPプラント 完工式(2006年)



「こだわり・変革・飛躍」を掲げ、「テクノアメニティV3」に着手

近藤は、2006年から2010年にかけて長期経営計画「テクノアメニティV3」に取り組みました。この計画は将来像を「個性的な技術で新たな価値を創造する国際企業」とし、スローガンに「こだわり・変革・飛躍」を掲げました。

姫路製造所においては、AAおよびSAPの新プロセスを導入し、収益性の拡大と安定に注力しました。2006年8月と、2010年4月にAAプラントを増設し、2010年8月にはSAPプラントも増設しました。また、同年10月に姫路製造所は開所50周年を迎えました。

川崎製造所においては、EOセンター化構想を推進しました。2008年8月に川崎製造所の千鳥工場と浮島工場をEO用導管で結び、両工場の一体運営体制を整えました。2009年6月に川崎製造所は開所50周年を迎え、2010年1月にはEOプラント増強工事が竣工しました。



ベルギー王国大使が吹田工場・研究所を来所(2007年)



写真(上)のベルギー王国大使一行とコンクリート混和剤用ポリマーの実験(2007年)



姫路製造所開所50周年での記念植樹(2010年)



川崎製造所開所50周年記念祝賀会(2009年)



EOプラント増強竣工式(2010年)



AAおよびSAPプラント増設完工式(2010年)

リーマンショックからV字回復

長期経営計画「テクノアメニティV3」では、電子情報材料分野において、確固とした地位を築くことも重要な目的でした。近藤は、2006年4月に電子情報材料事業部を新設しました。

姫路製造所に2006年9月、光学材料用アクリル樹脂「アクリビュー」のプラントを新設し、さらに2007年10月にもプラントを増設、また、カラーフィルター用レジスト樹脂「アクリキュア」も2007年4月にプラントを増設し、生産能力を大幅に引き上げました。

IR活動にも力を入れ、国内外のアナリストや機関投資家との対話を通し、当社の魅力を発信しました。

近藤は、これと決断した時は、速やかな実行を常とし、優れた指導力を発揮し確実に成果に導きました。2008年秋に発生したリーマンショックの際の業績急落時も、雇用を守り続けながら様々な施策を推進し、2009年度、2010年度には業績をV字回復させ、事業基盤を強固なものにしました。



欧州にてIR活動(2007年)



2009年3月期第2四半期決算アナリスト向け説明会(2008年)



化学工業日報からのインタビュー(2008年)



エヌエイ・インダストリーズ社 ヒューストン新SAPプラント起工式(2010年)



イノベーション2007 ポスターセッション

関東地区大運動会(2008年)

日本触媒企業行動憲章を制定しCSRを推進

近藤は、事業拡大に注力する一方、CSRを経営の根幹と位置付けていました。2006年に企業理念「テクノアメニティ」のもとCSRの定義づけを行い、CSR推進体制を整えました。企業倫理においては、2007年に日本触媒企業行動憲章を制定し、全従業員を対象に日本触媒企業倫理ガイドブックを配付しました。

さらに、2008年にはテーマを「みどり」として社会貢献活動を推進して行くこととし、「日本触媒の森」づくり事業を開始しました。

ガバナンス体制強化のため、2010年6月に経営機構改革を断行し、執行役員制度の導入や社外取締役の招聘によりコーポレートガバナンス強化を図りました。



「日本触媒・水源の森」づくり森林ふれあいツアー開所式(2008年)



「地球温暖化防止と日中友好の森」づくり植林ツアー(2010年)



企業倫理ハンドブック



「砂漠化防止技術研究プロジェクト」調印式(2008年)



大阪本社 ビアパーティー(2010年)

大阪地区OB会(2010年)

経営を後輩に託し、業界全体の発展に貢献

近藤は、2010年から2015年にかけて取り組む長期経営計画「テクノアメニティ2015」を策定しました。ここでは新たなスローガン「未来への挑戦、夢の実現」を掲げ、2025年のビジョン・目標を「革新的な技術で新しい価値を提供する化学会社」と規定しました。

新たな目標に向かう力強い第一歩を見届けた近藤は、2011年に取締役会長に、2012年に相談役となり、経営者としてのバトンを後輩たちに託しました。

近藤は、以前から社外活動にも参画していましたが、会長就任後は、より積極的に化学業界全体の発展に尽力を続けました。

2015年7月に日本化学会化学オリンピック支援委員会委員長としてアゼルバイジャンで開催された第47回国際化学オリンピックに赴き、その際に行われた2021年開催第53回国際化学オリンピックの開催地決定で日本での大会招致を導きました。



社長として最後の欧州訪問(2011年)
左から2番目が次期社長の池田副社長(当時)

COLUMN

社長交代の記者会見で近藤は、「明るく積極的で物事をはっきりさせる人。総合的な経営手腕があり、事業や成果につなげられる」と池田副社長のリーダーシップに期待を寄せていた。



大阪大学で開催された社外講演会で講師を務める(2012年)



再会パーティーにて(アゼルバイジャン2015年)

写真提供:公益社団法人日本化学会

長年の功績が認められ旭日中綬章を受章

2015年10月23日、化学の日に開催された記念講演会「日本化学産業の未来」で「新規製品の創出や既存製品の革新的な改良を目指し、必ず成功させるという強い意思を持ち続けて、独創的なアイデア・技術に基づいた研究開発に取り組んでください」と若い研究者たちにエールを送りました。

2019年には、「多年化学工業に携わり常に経営の改善に努めるとともに、関係団体の要職にあつて業界の指導にあたり、斯業の発展に寄与した」功績により、秋の叙勲で旭日中綬章を受章しました。

2020年4月7日、近藤は不帰の客となりました。享年75歳。同日、正五位に叙されました。近藤の残した業績は、化学業界全般に貢献する偉大なものでありました。それにもまして、誠実で包容力あふれる人となり、私たちは決して忘れることはないでしょう。



化学の日 記念講演会で講演(2015年)



有機合成化学研究所 第29回講演会(2014年)



関西化学工業協会 創立60周年記念祝賀会(2008年)



近畿化学協会 創立90周年記念祝賀会(2009年)



大阪工研協会 通常総会(2015年)

略歴

1944年	4月12日	父綾男、母喜久子の長男として愛媛県新居浜市で誕生
1963年	3月	新潟県長岡高等学校卒業
1963年	4月	京都大学工学部合成化学科入学
1973年	3月	京都大学大学院博士課程(合成化学専攻)修了
1973年	4月	日本触媒化学工業株式会社(現 株式会社日本触媒)入社
1991年	3月	研究本部 研究企画部主席部員
1992年	3月	研究本部 R&D推進室長
1993年	8月	筑波研究所長
1997年	4月	企画開発本部 新規化学品開発部長
2000年	6月	日宝化学株式会社 代表取締役社長
2003年	6月	常務取締役
2004年	6月	代表取締役副社長
2005年	4月	代表取締役社長
2011年	4月	代表取締役会長
2011年	6月	取締役会長
2012年	6月	相談役
2018年	6月	名誉顧問
2020年	4月7日	永眠

主な社外歴

2007年5月～2009年5月	社団法人近畿化学協会(現 一般社団法人近畿化学協会) 会長
2008年5月～2010年5月	社団法人日本化学工業協会(現 一般社団法人日本化学工業協会) 副会長 関西化学工業協会 会長
2012年5月～2020年3月	社団法人大阪工研協会(現 一般社団法人大阪工研協会) 副会長
2013年6月～2019年6月	株式会社ダイセル 社外取締役
2013年6月～2019年6月	大阪機工株式会社(現 OKK株式会社) 社外取締役
2013年5月～2015年5月	公益社団法人日本化学会 副会長
2015年4月～2017年2月	公益社団法人日本化学会 化学オリンピック支援委員会 委員長
2017年5月～2019年8月	特定非営利活動法人国際化学オリンピック日本委員会 理事、組織委員会 副委員長

栄誉

2019年11月	旭日中綬章 受章
2020年4月	正五位に叙される

忠夫の書斎より、お気に入りの品々



「モンゴルのキーホルダーとバラのドライフラワー」
キーホルダーは、中国植林ツアーに参加した時のお土産。



「ゴッホの絵の水差し」
頂き物のヨーロッパ土産。書斎の置物を楽しんでいた。



「愛用のキャップ」
お気に入りのマーカーがついたゴルフキャップ。

デッサン 妻 近藤道子

